

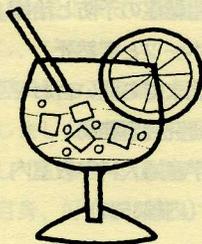
# Topics

各紙掲載記事より 94年11月～95年6月

■94年11/19(報知) “女盛り” 悩んでいます 18日の陸連理事会にショッキングな報告書が提出された。女子委員会がまとめたもので、昨年の国際マラソン出場者のうち完走した女子ランナー109人についてアンケート。平均年齢35.6歳の女盛りの女性たち。生理不順と答えた人は33.9%もあった。

■95年1/31(日刊スポーツ) 浜口国際大会でvプロレスラーのアニマル浜口の長女浜口京子(17=代々木)が、「トウルコアン国際大会(フランス)65kg級で優勝した。アマレスを始めてから約2年。女子アマレスが正式種目になる可能性がある2000年のシドニー五輪を最大目標に、着実な成長を見せている。

■2/4(報知) テニスの女王から野球の女王を目指す 女子プロテニス界の女王マルチナ・ナブラチロワ(38)=米国=が女子プロ野球のコロラド・シルバプレッツでプレーしたいと思っている、と3日付のアトランタの地元紙が伝えた。実現すれば、米プロ野球に転身したマイケル・ジョーダンのまさに“女性版”となる。



■4/27(読売夕刊) ママさん頑張る ホッケーの全日本女子チーム元主将で、昨年9月出産したばかりの奈良市の主婦、飯田育子さん(28)が、15日に開幕した西日本リーグで、現役に復帰した。現在、リーグただ1人のママさん選手だが、「主婦の選手がもっと増えればいいですね。子供にプレーを見せるのは、いいことだと思う」と、飯田さんは長男将道ちゃんが試合を理解できるようになるまで頑張るつもりだ。

■5/16(朝日=共同) 母は強し 英国の2児の母親(33)が女性として初めて無酸素、単独で世界最高峰エベレスト(8,848メートル)の登頂に成功。この女性はアリソン・ハーグリーブさんで、13日に登頂に成功。頂上から2人の子供あてに「トムとケイト、お母さんは今世界の最高峰に立ったわよ。2人を愛している」とのメッセージを無線で送った。

■5/20(朝日) Lリーグに女性の笛も 日本サッカー協会は27日の評議員会で審判の「女子1級」の資格を新設する。審判資格は1級から4級まで分かれているが、男女の区別はなかった。しかし女子の体力で1級のテストに合格するのは難しい。女子だけの資格をつくってLリーグ(日本女子サッカーリーグ)で主審を担当できるようにする狙いだ。

■6/7(読売) プロ、アマの垣根、より低く フィギュアスケートの伊藤みどり(25=プリンスホテル)が“アマチュア”に復帰した。プロ転向から3年。アマ復帰とはいえ、アイスショーへの出演は続けることが出来る。みどりは「アマ競技会の緊張感が懐かしい。ショーで楽しく滑りながら、競技会にも出場したい」と言う。転換を迫られたのには、3年後の長野五輪を控え、人材不足という日本連盟の事情がある。